

序 JUDI 関西の活動から都市デザインの 20 年を振り返る

- 1 都市環境デザインフォーラム関西の推移
- 2 フォーラムテーマのグルーピング
- 3 二つの意見書の提出
- 4 都市環境デザインの新たな展望

鳴海邦碩

1 都市環境デザインフォーラム関西の推移

任意団体である都市環境デザイン会議 (JUDI) は 1991 年の設立である。1989 年 2 月、JUDI の準備会の 1 回目の会合が東京で開かれ、29 名が参加した。引き続いて開催された大阪での会合では 16 名の参加があった。

さて、この 20 年の都市デザインを巡る変化を、JUDI 関西の活動を通して概観しておきたい。JUDI 関西では、1992 年から毎年 1 回、フォーラムを開催してきた。今回のフォーラムは 18 回目にあたる。これら一連のフォーラムのテーマは、それぞれに時代を反映している。

この 20 年は、バブル崩壊と時を同じくしており、都市デザインの仕事の内容が大きく変化してきた時代でもある。JUDI 関西のフォーラムは、1992 年「関西は今」ではじまり、1993 年のテーマは「田園と自然を考える」で、兵庫県丹波地域で開催した。メンバーの関心のなかに、自然、環境、田園地域が大きく存在していたことを示している。1994 年は「土木と環境デザイン」でこれも自然との調和が関心事であった。

1995 年は、阪神・淡路大震災が起きた年である。JUDI 関西のメンバーの多くが、震災復興等に関わるようになり、この年のテーマは「まちとアイデンティティ」であった。場所論で知られるエドワード・レルフを招いて基調講演をしていただいた。まだ復旧も途上の神戸で開催し、臨場感・緊張感のあるフォーラムであった。

以降、「1996 年 都心居住の環境デザイン」「1997 年 仮想世界の誘惑」「1998 年 大地への取り組み」「1999 年 参加型都市環境デザインをさぐる」「2000 年 環境共生型都市デザインの世界」「2001 年 街の遺伝子」と、都心居住、参加型デザイン、環境共生など、震災復興においてもキーワードとなった重要なテーマが続いた。

2002 年 4 月に都市再生特別措置法が公布され、以降、関西、とりわけ大阪で都市再生特区制度による開発が進んだ。しかし、JUDI 関西のフォーラムでは、これをテーマにとりあげていない。その理由は、進捗スピードが速かったことや、大型複合開発や大型ビル建設が主で、都市デザイン上の検討テーマを見出しにくかったためと考えている。フォーラムのテーマは、

「2002年 かたちと関係の風景デザイン」「2003年 都市環境デザインのファッションとモード」と続いた。

2004年6月、景観法公布され、改めて景観に関する関心が大きくなった。熊野古道がユネスコの世界遺産に登録されたことを背景に、2004年に「歴史と向き合う街とは、癒しの風景とは」が田辺市で開催された。参加のまちづくりの拡大を背景に、2005年「都心のまちづくり、その担い手」がテーマとなり、ついで2006年、参加の中で「デザインの力」がいかにあるべきということが論じられた。また、都市の活性化が課題となっていることを背景に、2007年「都市観光の新しい形」を岸和田市で開催した。

景観法の公布を受けて、京都市は、景観施策の大幅な見直しを行い、2006年12月、新方針を解説した「都市計画ニュース」を全戸に配布した。こうした動きを背景に、2008年のフォーラムは「京都の景観はよくなるか!？」をテーマに設定し、メンバーで景観実態の調査を実施した成果を持ち寄ってフォーラムを開催した。

2 フォーラムテーマのグルーピング

これまでのフォーラムのテーマは下記のようにグルーピングできる。それぞれが時代を反映するテーマであると同時に、繰り返し検討されるべき重要なテーマでもある。

自然・田園・大地

- ・1993 田園と自然を考える (宮前洋一・江川直樹・中瀬勲)
- ・1994 土木と環境デザイン (榊原和彦)
- ・1998 大地への取り組み (増田 昇)
- ・2000 環境共生型都市デザインの世界 (山崎正史)

注：()は
フォーラム
委員長

まち・アイデンティティ・まちづくり

- ・1996 都心居住の環境デザイン (田端 修)
- ・2001 街の遺伝子 (小浦久子)
- ・2005 都心のまちづくり、その担い手 (岸田文夫・篠原祥)

デザイン・ファッション・情報世界

- ・1997 仮想世界の誘惑 (丸茂弘幸)
- ・2002 かとちと関係の風景デザイン (松久喜樹)
- ・2003 都市環境デザインのファッションとモード (角野幸博)
- ・2006 デザインの力 (中村伸之・高原浩之・長町志穂)

まち・アイデンティティ・景観

- ・1995 まちとアイデンティティ (材野博司)
- ・1999 参加型都市環境デザインをさぐる (小林郁雄)
- ・2008 京都の景観はよくなるか！？ (藤本英子)

ツーリズム・環境デザイン

- ・2004 歴史と向き合う街とは、癒しの風景とは (長谷川弘直)
- ・2007 都市観光の新しい形 (金澤成保)

3 二つの意見書の提出

JUDI 関西は、都市環境デザインの専門家団体として、これまで二つの意見書を提出している。この二つはいずれも京都市に対するものであった。

一つは京都市が計画した三条・四条間の鴨川歩道橋に関するものである。京都市は、フランスのシラク大統領の提案を受けて、パリの芸術橋（ボン・デ・ザール）を写した意匠の三条・四条間の鴨川歩道橋を計画した。この計画は、1997年に計画され、京都市都市計画審議会、京都府都市計画審議会で承認されたが、多くの分野の人たちの反対を受け、京都市は1998年8月に芸術橋計画を白紙撤回した。京都にふさわしいデザインのあり方が問われた出来ごとであり、JUDI 関西としてもセミナーを開催し、その意見交換等を踏まえて、1997年10月に下記の内容の意見書を京都市長に提出した。

「鴨川と沿岸の先斗町の町並みがつくる景観は、いまや歴史都市京都を代表するものの一つであり、また市民にとって大切な景観となっております。このような景観の持つ高い公共性を考えるとき、承認された計画案に対して私たちは次のような危惧を抱いております。

- ・人々に広く親しまれてきた鴨川三条・四条の間に、その景観を大きく変える新橋を敢えて建設する必要があるのか、先ず疑念を抱きます。

- ・承認された計画案は、京都の歴史に関係のないパリの橋の姿を歴史的町並みの中に持ち込むことにより、歴史的景観のイメージに混乱をもたらすものと危惧されます。

- ・パリのセヌ川に架かるボン・デ・ザールそのものが美しいものであるとしても、計画案の鉄とコンクリートの橋は、先斗町の木造の町並みと不調和を生じることが心配されます。また、橋幅の10メートルという広さも先斗町や鴨川のスケールとの不釣り合いが危惧されます。

- ・架橋に合わせて、木屋町と連絡する新しい道路が建設されることになれば、その広い道路で先斗町の親密なスケールの路地空間の魅力を損なうことが心配されます。

三条・四条間の鴨川のような京都を代表する公共性の高い景観に大きな影響を与える新橋の建設計画については、結論を急ぐことなく、広く市民の声を聞き、十分なコンセンサスを得た後に決定すべきであると考えます」。

JUDI 関西が行ったセミナーや提出した意見書が計画の撤回に影響を与えたと認識している。

先にも述べたように、景観法の公布を受けて、京都市は、景観施策の大幅な見直しを行った。JUDI 関西は、京都市の新施策を評価しつつも、より望ましい方向に展開することを願い、2007年3月に下記の内容を含む意見書を京都市に提出した。

「① 建物等のデザイン基準とその運用に対する住民の理解を深めるためのプログラムを、早急に市民に示すことが必要である。デザイン誘導を実行していくためには、市の担当部局の人員増強を中心とする充実強化が必須である。

② 住み続けられてきた都心というのが、他の大都市にはみられない京都の伝統であり、とくに職住共存地区では、身近な生活環境改善策を合わせた総合的なまちづくり策が期待される。修復や保全策を充実させながら、環境共生・ストック重視の新しいまちづくりにつながる政策とすることが必要である。

③ 建築的に洗練された京町家などの低層建物と未だ定形を模索しつつ中高層建物が混在する状況のなかで、市民の参加を得つつ、気長に地域ごとの景観イメージを捜し続けるしくみをつくり、支援すべきである。

地方都市の中心地区、それは多くの場合、歴史的地区でもある、におけるマンション問題の発生など、建築と都市計画が連動していないことが問題視されてきた。今回の京都市の景観政策の大幅な改訂は、建築と都市計画を結び付ける、新たな視点を提供していると評価できる」。

JUDI 関西では、その後も継続して、京都の景観形成にかかる自主的な活動を行っており、その効果に期待される。

4 都市環境デザインの新たな展望

今、時代は、成長の時代、人口増加の時代から、都市の縮退、人口の減少の時代に推移しつつある。そのなかで都市環境デザインの仕事も変化を余儀なくされ、これまでの成長期とは異なった役割が期待されるようになってきている。

JUDI 関西の会員から寄せられたこれまでの仕事事例の整理・考察を経て、次の時代の都市環境デザインの役割を展望しようとするのが、20周年を迎えたJUDI 関西の新しい時代への挑戦である。

2001年11月にJUDI 関西がとりまとめた『都市環境デザインの仕事』のなかで、筆者は、都市環境デザイナーの仕事を次のようにとりまとめた。

- ・都市環境に対して何をなすべきかなどを、市民や社会に問題提起する。
- ・調査などに基づき具体的な計画を提案する。
- ・空間的なコンセプトをデザインする。
- ・計画の実現のためのネゴシエーションをする。
- ・計画の展開をマネジメントする。
- ・計画の影響を事後評価する。
- ・調査の手本を示すとともに、技能の訓練の仕組みを保証する。

将来の都市環境デザインの仕事もおよそこの範疇に入るものと考えられるが、その具体についてはまだ定かではない。今回の一連の作業を通じてそれを明らかにしたいと考えている。